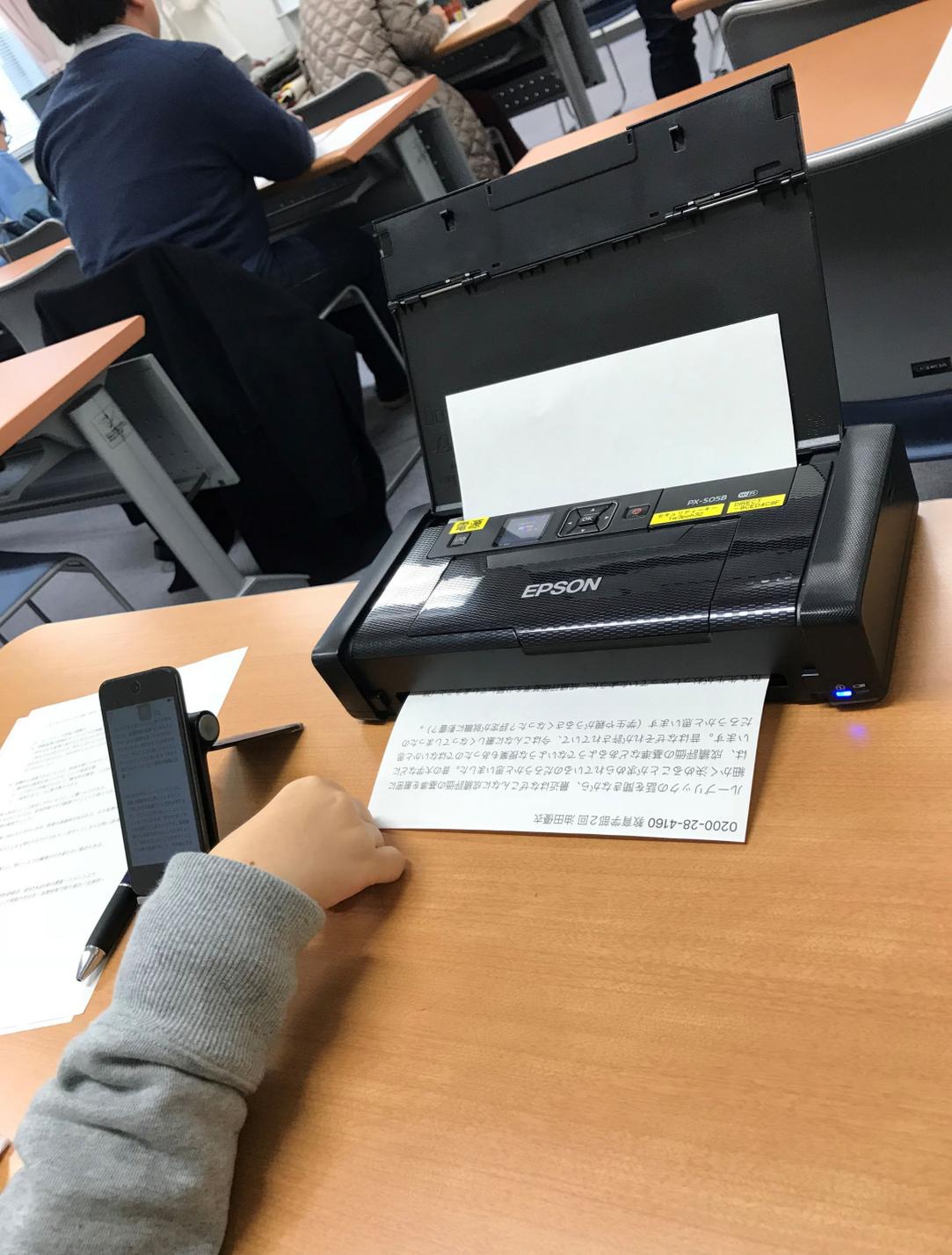


自己紹介

- 京都大学大学院教育学研究科修士課程
- SMA（脊髄性筋萎縮症）Ⅱ型で、日常生活動作（着替え、トイレ、寝返りなど）のほぼ全てに介助が必要
- 2016年の京都大学進学を機に、京都で24時間の介助サービス（重度訪問介護）を受けながら一人暮らしを始めた

トピック

- 大学選び
- 入試について
- 大学で受けている合理的配慮
 - ①授業中の人的支援
 - ②試験時などのパソコンやiPodの使用
 - ③紙の本のデジタルデータ化
 - ④環境面の整備（教室や研究室、図書館などに車椅子用テーブルを配置）
- 学内での福祉サービスの利用



試験や大学院入試では、
iPod（支援ルームの貸し
出し品）を使用して回答を
入力し、モバイルプリンター
で印刷して、その場で提出。



身体介助を行政サービスで一貫してカバーできたことで、大学生活を含む地域生活の自由度が広がった